

ぶんぶん

文化資源活用協会新聞



博と恭子のくらしを楽しむ二人展

2025年8月2日～31日、津金学校1階展示室で「博と恭子のくらしを楽しむ二人展」が行われました。津金に住んで約20年、津金の風景や豊かな自然環境の中で充実した生活を楽しんでこられたおふたりに、お話を聞きました。

恭子さんの着物リメイク、布絵

津金に住んで、家の隣の畑も借りて、野菜作り、梅干しや味噌、ジャム、つけ物など保存食づくりもずいぶん楽しみました。津金の斑山や藤岡神社からたどる尾根など、地元の方の案内で裏山歩きの楽しさも教えていただきました。

それから、自分や姉がゆずり受けた母の着物を何とかしたいとの思いで始めた着物リメイク。着物がチュニックやベストになり、帯はバッグやタペストリーにと、作品作りを楽しんでできました。洋裁仲間と富士川町の「酒蔵ギャラリー六斎（萬屋酒造）」で、展示販売やファッションショーなどのイベントを数回開催し、それがはげみになり、新しい作品に向き合う意欲へつながったように思います。

また、リメイク後の着物の残り布がたくさんあり、この小さな布切れを何とか生かしたいと思っているときに知人から素敵な先生を紹介していただきました。これが布絵との出会いです。

大好きな津金で楽しいことを見つけて、これからもゆっくり、のんびりくらしていけたらと思っています。（恭子）



博さんの山歩き・写真・PC…

風景や写真を撮るために行動しているわけではなく、長年の趣味の登山でダイナミックな眺めや高山植物など多くの感動を味わい、少しでも記録に残そうと写真を撮ってきました。写真は自分の趣味をより深く楽しむための大事な【道具】というわけです。

後で写真を眺めると何度でもその感動を味わうことが出来ますし、時には新たな発見やより深い感動に出会ったりもします。

写真同好会の仲間と清里の自然ふれあいセンターで毎年写真展を行ってきましたが、高齢化のため2024年末で解散が決まりました。それでは発表の場がなくなってさびしいでしょうと、妻がこの津金学校での展示を思いつきました。改めてこれまでに撮ったものを整理するよい機会になりました。山ではなく、身近な風景を大事にしたい、とも考えました。桑原の諏訪神社のお神楽の写真は、コロナで中断する前の頃のものだと思います。躍動感があって、面白いと思います。また最近、病気をして遠出を休んでいる間に、身の周りにも撮るものはいくらでもあると気がつきました。庭の草花、山の眺め、里山の水田の四季。足元のものに目が留まるようになったし、津金って自然も伝統文化も豊かな所だな、と改めて思いました。

そして最近、和紙の写真用紙に出会い、何気なく一葉のもみじの写真をプリントしたところ、それまで使っていた光沢紙やマット紙と味わいがガラリと変わり驚きました。この風合いは、この辺の風景の写真にすごく合いそうだと思って、用紙をさらに取り寄せ、たくさんプリントしてみて、この展示のための作品も生まれました。長年やってきた写真の、新たな表現ツールを、ここへきてもう一つ手に入れ、世界が広がってとてもうれしいです。まだまだ楽しめます。（博）



（構成 大塚綾子）

今後の予定

2025.10.5

山梨県の近代文学談話 清水昭三講演会

清水昭三さんは1930年（昭和5年）、下津金生まれ、津金学校（津金尋常高等小学校）の卒業生です。

山梨師範学校、日本大学文学部を出て清里中学校を皮切りに教師として40年勤められたわら、小説や評論、新日本文学会会員、山梨文芸協会初代会長など文壇で活躍され、たくさんの著書があります。

今回は、2019年（平成31年）4月の津金学校での講演以来、6年ぶりに「母校で語る 山梨県の作家論評」と題して、お話しくださいます。専門分野の文学談話とともに、余談として戦後80年についてもお話が聞ける貴重な機会です。

予約制、定員40名、大人1000円（飲み物つき）、中学生以下無料
取り上げる予定の山梨県の作家

◇樋口一葉 ◇中村星湖 ◇石原文雄 ◇山田多賀市
◇金子ふみ子 ◇深澤七郎

津金学校HPイベント案内で、作家のさらに詳しい情報をご覧ください。



下原の花火

下津金下原地区、ここでは毎年8月16日に打ち上げ花火があります。これは
おおよそまつみのみこと
下原地区天狗神社（正しくは天狗社：御祭神は大山祇命）の夏祭り行事です。花火の歴史を地区役員さんに聞きました。打ち上げの始まりは明治。地区住民の一人が旧知であった市川大門町（現市川三郷町）の花火屋さん（齊木煙火本店）に依頼、毎年天狗社の夏祭りに打ち上げるようになったとのこと。

この花火は戦時中一時中止となるも、その後は途絶えることなく現在まで継続しています。その費用は地区住民の夏祭りの寄付と近くの方々の協力金で賄われ、まさに住民の、住民による、住民のための花火。神社総代の頑張り、消防団の協力、そして住民の方々の協力で行われる下原天狗社花火は、今年もしっかり打ち上がりました！

地区の新参者の筆者も初めてこの花火を観たときは感動しました。少し離れた盛大な花火もいいですが、規模は小さくてもググッと間近で仰ぐ花火は（音もすごくて）感動です。

天狗社花火は地区にとって年1回の楽しみなイベントです。天気に恵まれて打ち上がれば、下原だけでなく花火が見える他の地区の皆さんも大いに楽しんでくださいます。継続は年々大変になりますが、それでも何とか続けたいと地区役員さんも住民の皆さんも思っています。末永く継承していきたい行事の一つです。（伊東）

編集後記

今回の展示会の本橋博さんのお神楽の写真を見て今年の春に行われた祭事（お神楽奉納）がよみがえってきました。コロナ禍でしばらく中断していただけに、今年は津金の4カ所の神社でそろって奉納が行われたことは喜ばしい出来事。やっぱりこういった儀式は続けて欲しいですね。

演じる側、観る側、地域の自然の豊かさや人々の穏やかな暮らしを願う気持ちが込められた祈りの舞と私は感じました。

そうそう今年も蛍が津金の里に光をもたらしました。（岡本）



津金学校に展示している昔の花火筒や竹屋商店の花火の注文書の手紙



現代の打ち上げ準備風景

